２０１１年（平成２３年）７月２４日　日曜日

東奥日報新聞　掲載

第93回 全国高校野球 青森大会 第９日

光星猛攻15得点

山田高 10得点 反撃及ばず

第93回全国高校野球選手権青森大会第9日は23日、青森市営球場で準々決勝の残り2試合を行い、木造と光星学院が準決勝進出を決めた。これで野辺地西、聖愛高を含め4強が出そろった。序盤から集中打で主導権を握った木造は、平滓一對馬の継投で十和田工打線をかわし、8－4で勝利した。光星学院は先制を許したものの、二回と四回に打者一巡の猛攻。強打を誇る青森山田の追い上げを振り切り、15－10で準決勝へコマを進めた。第10日の24日は決勝進出を懸け、同球場で野辺地西－聖愛高、木造－光星学院の準決勝2試合を行う。

【光星学院－青森山田】４回表、光星学院１死満塁、天久が右翼線に走者一掃となる適時三塁打を放ち12－２とリードを広げる。捕手・大前

▽準々決勝（青森市営）

光星学院	0	0	9	0	6	0	0	0	0					
青森山田	2	0	0	3	5	0	0	0	0					15

青森山田（光）秋田－松本（青）野村、山崎、佐藤、木村、山崎－大前

▽本塁打　山崎（青）

▽三塁打　天久（光）▽二塁打　秋田2、岸本、田村2（光）木浪、山崎、大前（青）

▽暴投　佐藤（青）

▽審判　西村（球）三橋（1B）李沢（2B）田辺、小松（3B）

【評】2点を先制された光星は二回に反撃開始。1死二塁の好機に、秋田の適時二塁打と敵失などで同点とすると、田村、北條、金山の3連続適時打などで一挙9得点。四回にも打者一巡の猛攻で6点を加えた。先発秋田は中盤まで制球に苦しんだが、六回以降は立ち直り、反撃を許さなかった。二遊間を中心とした堅守も光った。

青森山田は先発野村が誤算。救援陣も甘く入った変化球を痛打された。打線が踏ん張り、追い上げたものの、序盤の大量失点が最後まで響いた。

焦点

主戦の不調 打線が救う

光星

「まさかこんな展開になるとは…」（光星学院・仲井監督）。一時は15－2と圧倒し、コールド勝ちも視野に入っていた。しかし最後は昨秋の新チーム始動以来、公式戦初の2ケタ失点。序盤の大量得点は生きたものの、青森山田の猛攻に中盤以降は勝利を確信できない戦いが続いた。

春の甲子園で注目された打撃は、全員安打で四回までに圧巻の15得点。一方、好調な打線とは対照的に、主戦秋田は苦しい戦いを強いられた。

いつもは淡々と投げ抜くが、打線が爆発し、リードが広がることに出てきたのは「力み」だった。「勝ちを意識すると力で抑えようとする自分の悪いところが出た」と秋田。

わずかな手元の狂いが甘い球となり、大量点差で後が無くなっていた相手にちゅうちょなく強振された。四、五回だけで10安打を浴び8失点。味方の無失策の堅守にも応えられなかった。不調のエースに完投を強いた仲井監督は「自分に代える度胸がなかった」と弱気に話した。

それでも「勝てたから次に向けて反省できる」と主将川上は前向きだ。「今日はコールドでいけるんじゃないかーという気の緩みがあった。山田のためにも、この勝ちを生かして優勝まで気を抜かずに戦う」と続けた。

ライバルとの戦いを乗り越え、頂点まであと2勝。春夏連続の甲子園出場を果たすため、同じ過ちは繰り返さないとナインは誓っている。

（八島佳奈子）

東奥日報社提供